2020 年 1 月 20 日発行　奇数月隔月刊 20 日発行　通算 364 号

ボランティア・市民活動を広げ、応援する！

# ネットワーク Network

NO.364　2020 年
2 月号

## 特集 学校の今 part 2
## ～地域で支える体験学習と課外活動

特別企画
モノ言うTシャツ

思い立ったがボラ日
手編みの鳥の巣を届ける会
**鳥の巣づくりにチャレンジ**

いいもの みぃ～つけた！　vol.23
ちょんこめ作業所
**八丈島の植物や生き物をステンシル作品に！**

TVAC News　vol.4
中高生のボランティア団体
VIOLET!!

# 手編みの鳥の巣を届ける会

アメリカの動物救護団体（Carolina Waterfowl Rescue）の代表 Jennifer Gordon さんへ届けた手編みの鳥の巣。写真提供＝早水悠登氏

## 思い立ったがボラ日（ジツ）

このコーナーでは、毎回一つの団体を取材し、活動内容やそこで活動するボランティアさんの生の声をお届けします。

色とりどりの毛糸で編まれた鳥の巣は、可愛らしく、いかにも温かそうだ。今回は、「手編みの鳥の巣を届ける会」の活動「鳥の巣を編む会」に参加させていただいた。

### 趣味から広がる支援のネットワーク

「手編みの鳥の巣を届ける会」の代表早水悠登さんは、２０１９年４月より活動している。活動のきっかけは、趣味で始めた「編み物」。たまたまインターネットで、ケガや親鳥とはぐれた野生のヒナを手編みの鳥の巣で保護し、再び自然に返す活動をしている、米国動物救護団体 Carolina Waterfowl Rescue（以下ＣＷＲ）の活動を知り、共感。「一応、編み方は決まっていますが、形が歪でも、大きさが不ぞろいでも使用に不都合はないので、誰でもできます」と早水さん。

今回で開催が４回目となる「鳥の巣を編む会」は、参加した多くの方が Twitter や Facebook 等のＳＮＳによって活動を知り、初めて参加したという。活動を始めたばかりだが、遠方から来る方も含め、毎回20～30名の方々が集まり賑わっている。「編み物好きなので、趣味が何かに役立つならと思い参加した」「鳥を家で飼っていて、編み物も好きなので活動に共感した」「普段は『あみぐるみの会』に参加しているが、ネットで活動を知り、楽しそうだったので参加した」など、参加理由の共通点は、やはり「編み物」。子どもから大人まで、編み物好きの様々な年齢層の方で賑わっていた。「この色合いすてきね」「ちょっとこれ、ゆるく編み過ぎかしら」と会話をする姿は、初対面の方同士とは思えないほど、打ち解けている様子だった。

また、初心者の方は、編み物歴の長い参加者の方に教わることができ、手ぶらで行っても大丈夫。活動で使用される毛糸や

左から2番目が
「手編みの鳥の巣を届ける会」代表の早水さん。
写真提供＝早水悠登氏

アメリカの動物救護団体（Carolina Waterfowl Rescue）への訪問報告のようす。

手編みの鳥の巣で育つヒナ。

かぎ針をそれぞれ内藤商事株式会社、株式会社チューリップよりご協力いただいてる。初めてでも安心して参加できるところも魅力だ。

## CWCへの訪問

2019年夏、CWRの活動をよく知るため、早水さんは渡米し、団体を訪問した。全国から集められた手編みの鳥の巣は、700個あまり。それらを直接彼らの元へ届けた。

CWRでは1週間、保護されているヒナの世話をするボランティアのお手伝いをしながら、「手編みの鳥の巣」が使われている様子を撮影したり、スタッフの方に彼らの活動についてお話を伺った。春先から巣立ちの時期にかけて、手編みの鳥の巣は沢山必要とされ、1日100羽ほどのヒナが保護されるという。しかしながら、動物たちの世話をするボランティアの人手が慢性的に不足しているそうだ。帰国後、早水さんは、実際に見て感じたことの報告を「鳥の巣を編む会」で行った。

団体のロゴ。

## 「#編み物で野鳥を救おう」で拡散を

SNSで拡散し続ける「手編みの鳥の巣を届ける会」。活動の認知度を上げるツールとしてSNSが重要な役割を担っている。「編み物は楽しいから、みなさんにやって欲しい。集まれる場所があるのは大事だと思うので、気軽に楽しめる場がつくれたらいい」「今後は、さらに開催地を広げ、写真展などのイベントも開催していきたい」と早水さん。会の最後には、かわいい鳥の団体ロゴがプリントされたステッカーが販売され、売上金は団体へ寄付されるという。

ご興味をお持ちの方は、〝#編み物で野鳥を救おう〟を忘れずに。

**手編みの鳥の巣を届ける会**

連絡先
メール：KnitForBirds@gmail.com
情報発信は Twitter @ KnitForBirds や Instagram@knitforbirds で

次ページでは
活動内容を紹介しています

# １日体験してみました！

思い立ったが ボラ日

（編集部）

1 まずは受付！

2 毛糸は内藤商事（株）、編み針は（株）チューリップのご協力で自由に使用できます。

3 会場の装飾も手編みでステキ♪

4 初心者でも周りの方々が丁寧に教えてくれます。

5 続々と手編みの巣が完成！

6 こちらの手で編まれた鳥のぬいぐるみが「あみぐるみ」。手編みの巣でヒナたちがすくすく育ちますように…

# Contents もくじ

ボランティア・市民活動を広げ、応援する！
ネットワーク Network NO.364 2020年 2月号

## 深める　ボランティア・市民活動に役立つ視点や情報をお届けします。

特集 学校の今 part 2
～地域で支える体験学習と課外活動

6 インタビュー
地域とともに学校の教育活動を支援するために
◇小林 淳（杉並区 学校支援課 学校支援係長）

9 地域の学校を支える市民たち「あん子応援団」
～松庵小学校 学校支援本部の取り組みから考える
◇花井 香（杉並区立松庵小学校 学校支援本部「あん子応援団」学校・地域コーディネーター）

13 松庵小学校と学校支援本部の連携授業とは!?
～授業見学レポート

15 あすマネ　日ごろ頑張ってくれているボランティアにお礼をしたい
～感謝の気持ちの伝え方～

## 知る　ボランティア・市民活動のさまざまな形やボランティアに一歩ふみだすヒントを、ご紹介します。

1 思い立ったがボラ日　手編みの鳥の巣を届ける会／鳥の巣づくりにチャレンジ

21 TVAC News　Vol.4　中高生のボランティア団体 VIOLET!!
◇村松 波（武蔵野大学 工学部数理工学科）

22 つぶやきブレイク　vol.11　孤独と自立のあいだにあるもの

23 ◇特別企画　モノ言うTシャツ

26 いいもの みぃ～つけた！　vol.23　NPO法人ちょんこめ会　ちょんこめ作業所
八丈島の植物や生き物をステンシル作品に！

### 『ネットワーク』の公式Facebookページあります!

▸▸▸ https://www.facebook.com/tvac.network/

- 取材のこぼれ話や、次号に向けて進行中の記事についてリアルタイムでご報告します！
- 過去に掲載した団体の情報や、本誌に関連する東京ボランティア・市民活動センターのお知らせなどを発信します！
- お気に入りやブックマークに登録してご利用ください！

ぜひご利用ください!

特集

# 学校の今 part 2
## ～地域で支える体験学習と課外活動

杉並区立松庵小学校にて、学校支援本部と同校との連携授業の様子。
写真左上から時計回りに、国際理解ワークショップ、茶道、インターナショナルスクール交流、車いす体験。
写真提供＝松庵小学校 学校支援本部

子どもたちが豊かな学びを得るために、学校と地域の社会資源（保護者、PTA、地域住民、ボランティア・市民活動団体、企業など）が結びつき、多様な実践が生まれている。その一方で、部活動をはじめとする、教職員の過重労働などの課題が社会的にも注目されている。
前号では、学習院大学教授の長沼豊さんにインタビューし、学校における現状や課題、市民が学校を支えている事例について伺った。
今号はその事例の中から、杉並区の学校支援課と区立松庵小学校の学校支援本部への取材、学校と同本部との連携授業の様子を通して、市民が学校を支える可能性を考えてみたい。

インタビュー

# 地域とともに学校の教育活動を支援するために

杉並区 学校支援課 学校支援係長　小林 淳

## 地域の人と連携し、全国に先駆け学校の支援を

学校支援本部とは、想いを持った地域の人とともに、教育活動をサポートするため学校に設けられた、ボランティアによるネットワーク型組織のことです。杉並区は学校教育に対する市民の関心が高いといわれる地域で、学校運営や教育活動において、地域の人びとからさまざまな形で協力を得るなど、地域との連携が図られてきました。学校支援本部は、こうした取り組みをさらに発展させ、より組織的に学校支援を進めるための組織です。

杉並区教育委員会では、２００６年度から学校支援本部の支援を全国に先駆けて開始しました。その結果、２０１０年度には小中全校に設置され、地域の特色を生かした活動が行われています。

地域の人との連携が強くなったのは、総合的な学習の時間が始まった２００２年からです。外部講師を呼ぶにあたり、学校教育コーディネーターというしくみを全国で初めて立ち上げあげました。４人のコーディネーターから始め最終的に15人となり、校長先生が手を挙げた学校に入ります。1人が複数校を担当し、先生と打ち合わせて適切な講師を呼んでくる、というしくみです。

## 学校支援本部のしくみ

２００３年、東京都における義務教育初の民間人校長として藤原和博氏が和田中学校に赴任しました。藤原校長が学校支援本部事業を展開し、学校教育コーディネーター1人の活動ではなく組織にしたことで、地域のさまざまな人が学校の応援団になりました。

学校支援本部事務局の一員として、学校・地域コーディネーターがいて、学校と地域の調整、「学校サポーター」や外部講師の確保、各事業本部との連絡調整を行っています。

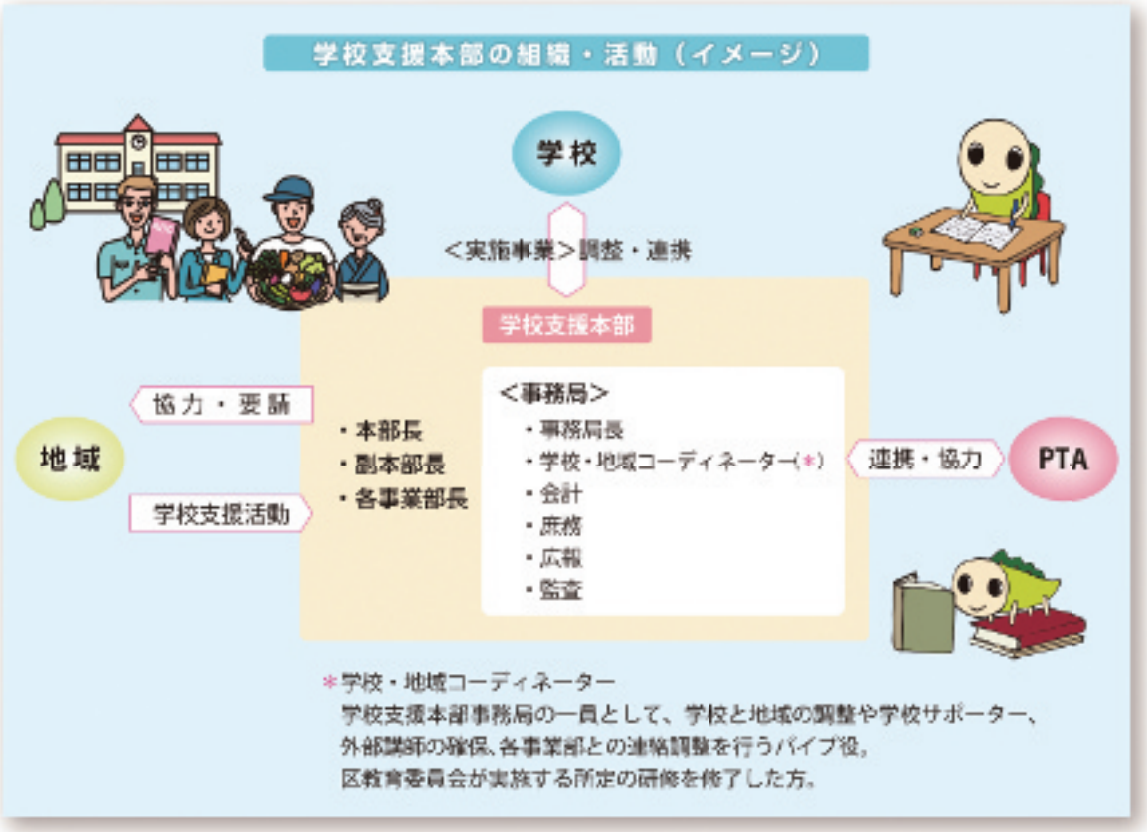
学校サポーターとは、一定時間学校にいて子どもたちのサポートをする人のことです。学校サポーターには1回２２００円の交通費費用弁償が出ます。ほかに、大学生による「学生ボランティア」と、部活動の先生を支援する「外部指導員」がいます。学校で活動しているのがこの3タイプの人びと。杉並には64の小中学校があり、活発な学校は予算が足りなくて1回５００円程度にするなど、柔軟に運用してもらっています。小学校は先生が多くの科目を教えなくてはならないので、中学よりもサポートを希望することが多いですね。

学校支援本部の目的は、子どもたちにより良い経験と学びを与えることを目的としています。最初に外部の人を呼ぶ際には、打ち合わせをして内容を詰めたりと、先生の負担は増えますが、継続することで負担は軽減されていきます。長い目で見ると、先生の過重労働の解消にもひと役買うことになるのです。

## 学校支援本部のメンバーとは

学校・地域コーディネーターの多くは、元保護者です。自分の子どもが良い経験ができた感謝の気持ちでメンバーを希望するというパターンが多いようです。学校・地域コーディネーターは、区教育委員会が実施する所定の研修を修了した方にお願いしています。コーディネーターになってからも中堅研修や、地域ごとに小学校を7つ、中学校を4つに分けた「分区連絡学習会」などで常に情報交換や共有、学び合いをしながら、ひろがりやつながりをつくっています。現在、コーディネーターは２４５人ほどで、1校に1人～複数人おり、学校には部屋も設けられています。

学校支援本部を支える一つとして、杉並区教育委員会では、教育支援情報や企業・団体の教育支援プログラムを紹介する『スクールサポートガイド』を発行しています。企画しているＮＰＯ法人は、初期の学校教育コーディネーターや元ＰＴＡ会長などで構成されています。同法人では、ＰＴＡ役員向け研修等をしながら、これまでの取り組みをカスタマイズし、ペーパー化しています。




学校支援本部の組織・活動のイメージ図。（杉並区教育委員会発行「学校支援本部」パンフレットより）

## 部活動支援の取り組み

学生ボランティアと学校サポーターには70回分の予算が組まれているのに対し、外部指導員は360回分で、2001年以降、全中学に配置しています。杉並では1983年がピークで中学の生徒数約17000人、400学級ありましたが、2016年は7000人で200学級となっています。しかし、部活動数がこれに比例して半減するわけではありません。

ある中学校の運動部の保護者から、子どもにもっと部活をさせたいという要請があり、外部の指導員に1人500円を保護者が負担する、通称「ワンコイン部活」は、和田中学校二代目民間人校長・代田昭久（現：長野県飯田市教育長）先生が2012年度からスタートしました。23校中22の校長先生に部活動活性化事業の情報を伝えると、翌年から9校20部活で取り入れ、2018年には21校51部活にまで広がりました。これも全国初の取り組みで、12の企業や団体と契約し、専門性のある人に指導してもらっています。

2016年には鈴木大地スポーツ庁長官が視察され、ガイドライン策定のきっかけとなり、補助金化されました。

部活動指導員事業は、令和2年度に週4日が都や国の補助対象となり、非常勤の公務員として採用する仕組みとなり、教員に代わり顧問として引率が可能な取り組みです。年収は100万円程度と、生活するには厳しい額なので、年金生活をしている元先生に依頼できるといいと思うのですが、学校の希望と合わない場合もあり、金額や人材の課題があります。

杉並区の部活動活性化事業は、12の企業や団体と契約し、週に2回の専門性のあるコーチによる指導が競技経験や指導経験の無い顧問教員に代わり指導を行う部活となっていて、企業努力により、希望する学校の希望する部活種目に、ほぼ100％の配置が可能な取り組みとなっています。一方、顧問業務、引率業務を任せることが可能な部活動指導員事業は、100％の配置が見込めないため、共に部活動に関する教員の負担軽減策の決定打とは言えません。

現在、野球部やサッカー部は部員がそろわない学校もあります。複数校合同で取り組むと先生の負担がさらに増えるので、部活動そのものを地域に任せるくらいのことができればいいのですが、そのためには学校

と社会のしくみ自体が変わらなければ難しいと思います。

## 「学校の棚卸し」をキーワードに

杉並区の教育長が「学校の棚卸し」を呼び掛けています。「卒業アルバムは将来どのような形になるのでしょうか?」を例に挙げています。「学校名、卒業年度、氏名、キーワードを入力すると、セピア色の思い出だった伝統のアルバムが、動画となる時期も近い将来の出来事かもしれません。これまで当たり前のように取り組まれていることを見直すことで、令和時代への最適化や教員の働き方の軽減につながる取り組みへと変わることができたらどうでしょう?」ということです。

区の施策としては、「保育園の待機児童ゼロ施策」が成功したことで、区の人口が「微減」から「微増」へと変わり、地域全体の活性化につながっていますが、一方で、共稼ぎ世帯が増えることでPTA活動の縮小の恐れが生じる可能性があります。このような課題に対応するためにも、「棚卸し」というちょっと立ち止まった取り組みが必要なのかもしれません。

昨年秋、千代田区立麹町中学校の工藤勇一校長にお越しいただき、講演会を開催いたしました。講演の中では、なぜ宿題が要らないのか? なぜ定期テストが要らないのか? なぜ学級担任が要らないのか? なぜ服装検査・頭髪検査が要らないのか? などをお話しいただき、麹町中学校にこれまでの当たり前をやめた理由を聞かせていただきました。参加の教員、保護者、学校支援本部のスタッフや学校運営協議会委員の皆さんは、とても感心・感動したという感想を残されました。まさに、工藤校長の学校経営は、様々な角度から棚卸しした結果ではないでしょうか。杉並区では、教育長から、公立小中学校の校長先生に向けて、所属の学校の地域性に合わせた見直しの背中を押してくれています。令和の子どものためになり、教員の負担軽減に繋がる一石二鳥の「取り組み」がまさしく「棚卸し」により実践できるよう、学校にいる教員免許を持つプロ集団に期待しているところです。

## 「地域と一緒」が杉並らしさ

教育長就任や民間人校長を採用していた15年ほど前の都の教員人事状況は、教育委員会事業が活発な品川・世田谷・杉並の頭文字を取って「スリーエス」と呼ばれる3区への人事希望が極端に少ないという状況がありました。本件に関する杉並区の復活は、まさしく地域と共にという取り組みをきっかけとしていて、ここが「杉並らしさ」のベースとなっています。初代民間人校長の「学校支援本部」の発想は、まさしく、和田中学校地域に住んでいる方々を結集した組織として学校を応援しようという取り組みです。

２０１０年に全小中学校に設置された「学校支援本部」は、その地域の状況に応じた特色ある取り組みとなっています。松庵小学校では、4月に児童全員と今年度、学校支援に参加する皆さんが一堂に会する「はじまりの集い」が行われ、農業系の大学との連携ではレンタルしている「山羊の飼育」や土曜日開催の「科学の祭典」などの特徴的な取り組みを行っています。また、校内に川が流れている井荻小学校では、環境系の学習を支援するスタッフが多く学校支援に参加し、さまざまな環境学習や川の清掃などに取り組んでいます。このように、特色ある教育活動を活かした学校支援本部のある区内の小中学校は、9回中8回の文部科学表彰を受けており、次年度におきましても、10回目のエントリーをする予定です。

企業・団体の教育支援プログラムや教育支援情報を紹介している『スクールサポートガイド』。
発行：杉並区教育委員会
企画：NPO法人スクール・アドバイス・ネットワーク

# 地域の学校を支える市民たち「あん子応援団」

## ～松庵小学校 学校支援本部の取り組みから考える

杉並区立松庵小学校 学校支援本部「あん子応援団」 学校・地域コーディネーター 花井 香

### 地域の人や保護者の「当事者意識」を大切に

**――学校支援本部や学校・地域コーディネーターのしくみについては、杉並区の学校支援課の小林さんにうかがいました。花井さんには、現場の様子や事例について、ご自身の想いやご経験を交えながらお聞かせいただきたいと思っています。まずは、花井さんが学校支援本部に関わるきっかけから教えていただけますか。**

私は２００４～05年度にＰＴＡ会長を務め、05年には杉並区立小学校ＰＴＡ連合協議会（以下、杉小Ｐ協）の副会長をお引き受けしました。それまでは保護者の一人という感覚でしたが、杉小Ｐ協に所属してから、子どもたちが社会を築く市民になるための学びを充実させるには、杉並区全体の教育がどこに向かっているのか、視野に入れる必要があるとわかりました。そして、先生と一緒に、地域の人や保護者も参画できる、より良い学校づくりが求められていることも実感しました。

当時は、学校の防犯対策の強化や、震災救援所の小中全校設置、給食調理業務民間委託の拡充、学校の統合、また、学校支援本部構想・コミュニティスクール構想が教育委員会から提案されるなど、いろいろなことが動いた時期でもありました。

**――松庵小学校で学校支援本部が立ち上がったのがその数年後ですね。**

松庵小学校はもともと、防災教育として「松庵親子ワイワイキャンプ」を行うなど地域の人が参画する素地があったため、早い時期に教育委員会からお話があったようです。最初は、連携は十分できている、枠にはめてかえって活動に不自由が生じるのではないか、との地域の判断でお断りをしたそうです。その後、校長先生から「しっかり組織をつくり教育委員会と連携していくことで、継続的により広範囲で活発な活動が可能になるのでは」というお話があって検討委員会をつくりました。そして、1年をかけて松庵らしい学校支援本部を検討したうえで２００９年に立ち上げました。地域の関心が高い分、時間がかかりましたが、皆の意見を聞き、理解を得ながら進めたのはよかったと思います。地域の人や保護者が当事者意識を持つことが大切だと考え、「あん子応援団」というネーミングやキャラクターも公募しました。

**――現在、どのようなしくみで活動されているのでしょうか。**

事務局は11名で、学校・地域コーディネーター、会計、広報、庶務などを担当しています。学校と地域の人との結び目が私たちの大事な役割です。

現在、あん子応援団に加入する12のボランティア団体があり、読み聞かせや門番レンジャーなどの「学校生活応援ボランティア」や夏祭り実行員会などの「自主的支援事業」があります。どの団体も保護者と地域の人が一緒に活動しています。

年３回発行している「あん子応援団通信」やブログで募集したり、活動発信したりしています。保護者会や校長先生の学校経営説明会にもご一緒させていただき、「学校と学校支援本部はベクトルを合わせて、子どもたちをこう育てたい、そのためにこんなことをやっていきます」とご理解とご協力をお願いしています。たくさんの保護者がボランティ

廊下に掲示されているあん子応援団のボランティアの人びとの写真。

ア活動に参加してくださっています。「在学中にはさまざまな理由でできなかったけれど、子どもが豊かな学びを体験できたことに感謝の気持ちを込めて」と言って卒業後、数年経って参加してくださるケースもあります。「あん子で活動して」と言われたと近所に住むご親戚の方がボランティアに加わってくださったこともありました。ありがたいです。

特徴の一つに、ボランティア団体が1年で解散することがあります。前年にやったことを大切にしながらも、変えていくことが必要だと考えているからです。結果的に、前年度と同じメンバーが残ることも多いですが、一度リセットすることで、振り返りができ、より良い活動を模索することになっていると思います。ボランティア側の状況も変化するので、ライフスタイルに合わせて組みなおすことも必要です。事務局でも、毎年新しい人が入り、新しい考え方が生まれています。

## 丁寧に時間をかけてつくる学校との連携授業

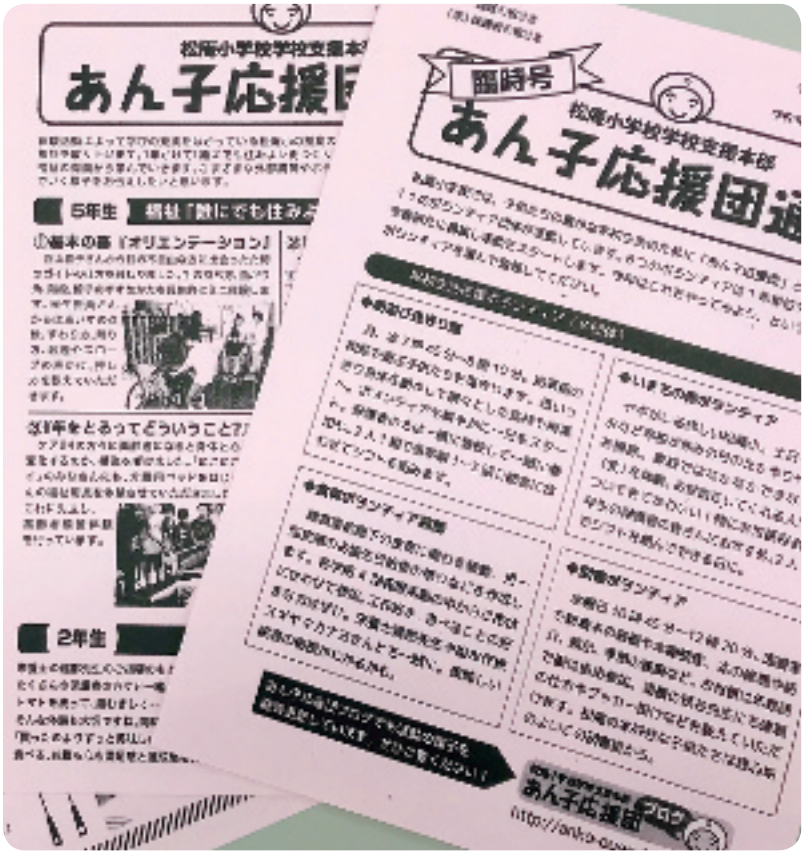
――学校支援本部では、学校との連携授業も行っていますが、それについてお聞かせください。

総合的な学習の時間のほか、社会、国語、理科、生活など、多くの科目で外部講師やボランティアの入る授業を行っています。校長先生が紹介してくださって、4月すぐに新しい先生を加えた各学年の先生全員と年間打ち合わせをしています。先生の授業カリキュラムに則り、相談や提案をしながら丁寧に内容を詰めていきます。

たとえば、「福祉」をテーマにした授業の一つに「車いすとことん体験」があります。地元の社会福祉協議会で車いすを借り、子ども同士交代で車いす十数台連ねて学校と最寄り駅を往復します。民生委員さんがつくったルートは、大きな通りや砂利道あり、段差ありと練られたもの。子どもたちは、車いすから見る違った風景を体感するのです。

同行した民生委員さんから、車いすの点検や乗降の仕方、段差やスロープなど基本を習ってから外に出た方がいいという意見をいただいて、翌年から、まずオリエンテーションと校内での車いす体験をすることにしました。このようにさまざまな人の手を借りて、時間をかけてより良いプログラムをつくっていきます。

そのほか、アイマスクを使っての視覚障がい体験や、逆に目の不自由




（上）地域の人や保護者に向けての「あんこ応援団通信」。活動内容や報告が丁寧に紹介されている。
（左）上から、「車いすとことん体験」での様子、いきもの係ボランティア、花と緑のボランティアの様子。
写真提供＝松庵小学校 学校支援本部

な人に出会った時のサポートの仕方をガイドヘルパーさんに教えていただきます。高齢者疑似体験や認知症サポーター講座、施設見学、ユニバーサルデザイン出張授業等、学びと体験を重層的に行っていきます。福祉のほかにも、キャリア教育や理科実験、身近な経済など、企業や、行政にも協力をお願いしています。

**――専門性のある外部講師が入ると、先生方も助かりますね。**

松庵小学校は杉並区の中でも外部の人の出入りが多い学校です。異動してきた先生は、最初は戸惑うようです。担任の先生の授業カリキュラムが一番大事です。それを生かし、より子どもたちに深く考えて受け止めてもらうために、専門的で体験的な時間を入れていくのだということを、理解して信頼していただけるよう、私自身もアンテナを高くして研鑽を積みたいと思っています。最初は気持ちにずれがあっても、年度の終わりには「あん子さんがいてよかった」と言ってもらえるよう、先生の考えを尊重しながら並走していきます。子どものためはもちろん、長い目で見れば先生の負担軽減につながることです。

私は、２０１７年よりスタートしたコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度、以下、ＣＳ）にも関わっています。ＣＳは、学校と保護者・地域の人がともに考え、協働して子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める、法律に基づいたしくみです。今、テーマに挙がっているのは教員の働き方改革です。連携小中３校合同で研修も行いました。先生方の業務が多岐にわたる中、先生が本当にやるべきこと、やりたいことは何か、私たちができることは何か、などを話し合っています。先生や保護者との懇談、ＰＴＡの現状と課題把握などもしています。ＣＳ会議での内容も学校の指針になるので、学校支援本部と両輪だと考えています。

## 「学校のいいこと発信」を！

**――松庵小の学校支援本部の特長と今後の展望などあればお聞かせください。**

４月に「はじまりの集い」というものを行っています。体育館に全校生徒が集まり、応援団との顔合わせ会です。あん子応援団は登録ボランティアだけでも２００人、土曜授業

「科学の祭典」では保護者１００人地域の方50人が協力して行われます。「はじまりの集い」には、都合のつく人にはみなさん参加していただきます。毎年50人余りになります。

先生のギターやドラムに合わせて歌って笑う催しで、たとえば「○年生！」「○○ボランティアの人！」などの呼びかけに、該当者が立って音楽に合わせて歌ったり、各ボランティアグループによる1分紹介コーナーがあったりします。「花と緑のボランティア」が花冠をつけて登壇するなど、ボランティアが自ら楽しい演出もしてくれます。

この催しは、子どもたちが大切にされて、地域・保護者も一緒に子どもたちのことを考えているということを、「可視化」する場でもあります。顔の見える関係になるために、ボランティアの顔写真を廊下に貼っています。顔見知りになると、外でお互いに挨拶する仲になったり、子どもが家庭や友だちに言えないことをポロっと打ち明けてきたり。子どもも大人も地域の知り合いが増えれば町全体の防犯・防災につながります。

「学校のいいこと発信」も大事にしていることの一つです。たとえば、ホームページの更新に手が回らない学校の代わりに、授業やボランティアの様子などをブログで発信しています。1日30～40ほどのアクセスがあります。

また、未就学児保護者向け学校説明会や給食試食会も学校と一緒に行い、本校ならではの体験授業や食育についてなどを紹介しています。入学したばかりの1年生の給食スタート時には保護者やボランティアに補助をお願いしています。てんやわんやの状態を保護者に見られたくないのではないかと思われるかもしれませんが、先生が子どもたちのために一生懸命やっていることがわかり、応援していこうという気持ちが生まれます。そして、子ども同士の関わりを見ることで、自分の子どもの幸せだけではなく、クラス、学年、学校の幸せがあってこそのわが子の幸せ、という想いを持ってくれる保護者も少なくありません。これもまた「学校のいいこと発信」なのです。

子ども自身が学びの扉を開き、知りたいと思う気持ちを養ってもらいたいです。そして、お互いの意見に耳を傾け、協働して新しいものを築く市民になってもらいたい。失敗しても「まあいいんじゃないかな」と思えるしなやかさも大事なことです。失敗を限界にせず、違う角度から見たらそんなに悪くないのでは、と発想の転換ができること。私は、幸せに生きることが一番大事なことだと思っているので。

私たちにできること？　一つひとつは些細なことかもしれませんが、まだたくさんあると思います。私たち自身が楽しんで学校に関わり、生きることは愉しいねって実感できたなら、それを見ていた子どもたちが「大人になるって悪くない」と思ってくれたなら、私たちの活動もまんざらでもないんじゃないでしょうか。

お話をうかがった花井香さん。

# 松庵小学校と学校支援本部の連携授業とは!?

## ～授業見学レポート

「あ、さて、あ、さて、さては南京玉すだれ！」

口上が体育館に響き渡りました。

松庵小学校の土曜授業のスタートです。

1月25日、松庵小学校にて行われた学校と支援本部の連携授業を見学しました。

1時間目は1年生を対象とした「昔遊び」。最初に、この日の「先生」となるＮＰＯ法人むさしの児童文化協会のメンバーたちが、児童に向けあいさつ代わりに玉すだれを披露しました。「なんだろう、これは？」という不思議そうな表情で眺める子どもたち。次に十二支のイラストを出すと、「ね、うし、とら…」と自然に声が挙がり始めます。

「先生」の挨拶を終えると、子どもたちは体育館の９つの箇所に走っていきました。そして、めんこ、まりつき、ベーゴマ、あやとり、コマ回し、けん玉、おはじき、竹返し、お手玉のコーナーに分かれ、それぞれ「先生」に教えてもらいながら、昔遊びを体験します。

気づくと、地域の人や保護者など、20人以上の人びとが見学に訪れていました。「先生」に声をかけられ、保護者も児童と一緒に昔遊びを体験するというシーンもありました。昔遊びは保護者世代でも経験している人が少ないであろうなか、本日の「先生」のほとんどは高齢の方たち。どの遊びもシンプルながら、「先生」たちのように鮮やかにはできません。子どもたちは集中し、うまくいくと「先生！できた！」と大喜びします。

多くの児童たちにとって、遊びというとオンラインゲームを連想するかもしれませんが、玩具と遊び方のコツを教えてくれる人がいたら、昔遊びは今の子どもにとっても十分に楽しめるものなのだと思いました。

＊＊＊

２時間目は、６年生を対象とした「平和の砦を築く」。杉並光友会（杉並区原爆被爆者の会）のメンバーを「先生」として、戦争と被爆体験について聴く授業でした。映像もなく、１人の女性が体験を伝えるという、シンプルな授業でしたが、友だちや父親が亡くなった話や、放射能を含んだ黒い雨が降った話には、児童の表情がかたくなりました。

「先生」は、「今の時代とはあまりに違うので想像がつきづらいでしょう。また、あなた方のおじいさんやおばあさんは私より若く、戦争を知らない人も多いでしょうから、戦争体験を直接聞く機会はなかったかもしれません。けれども、今も世界には戦争や紛争をしている地域があることを忘れないでください」と言葉を結びました。子どもたちからは「勝っても負けても戦争は人を幸せにはしないと思う」という感想が挙がりました。

＊＊＊

３時間目は、２年生を対象とした「国際理解」です。杉並ユネスコ協会から３人の「先生」が登壇。１人はミクロネシア連邦から来た留学生で、自身の国について紹介をしました。ミクロネシアは多くの島で構成され、一つの国なのにいくつかの現地語があることに子どもたちは驚きます。美しい自然環境に感嘆の声を挙げる場面もありました。一方で、戦闘機の残骸やアメリカの国旗の映像を見ながら、第一次世界大戦中は日本、その後、アメリカの植民地になったという話もありました。

学校支援本部のキャラクター、あん子ちゃん。

時間が進むにつれ、ミクロネシア連邦の留学生と子どもたちの距離が縮んでいくのがわかります。学校支援本部の花井さんがインタビューの中で「大人が受けてもおもしろい授業ばかり」と言っていたように、見学していた保護者や地域の人たちも、お話にグッと引き寄せられていきました。

３つの授業を通して、哲学研究者の内田樹さんがニュースサイト「ＢＬＯＧＯＳ」に寄稿した「受験生のみなさんへ」という記事を思い出しました（２０１８年３月23日）。記事の中で内田さんは、日本の教育制度は失敗していること、少子高齢化とＡＩの導入により「どの産業セクターが、いつ、どのようなかたちで雇用空洞化に遭遇するかは誰も予測できない。」とし、受験生に勧める唯一のこととして「学びたいことを学ぶ。身につけたい技術を身につける」と書いています。その理由は、やりたいことをしている時に「人間のパフォーマンスが最も高まる」から。生き延びるためには「生きる知恵と力を最大化」しておくことだと説いています。

どの授業も、学校支援本部が目指す「知識を押し付けるのではなく、子どもが自ら学びの扉を開き、知りたい・やりたいと思う気持ちを促す」ように工夫されていると感じました。授業で見聞きしたことを、すぐに調べたり実践する子どももいれば、「楽しかった」で終わってしまう子どももいて、何年も経ってから思い出す子どももいるでしょう。けれども、そのときの「面白かった」が内田さんの言う「パフォーマンスが高まる」ことにつながる一つの可能性となるのではないでしょうか。

子どもたちの学びは学校だけではなく、保護者や地域の人、市民にも支えることができる―そのことを体感することもできた一日でした。

4年生の「インターナショナルスクール交流」と5年生を対象とした「茶道」の授業の様子（見学の日とは別日に行われたもの）。
写真提供＝松庵小学校 学校支援本部

あん子応援団ブログ
http://anko-ouendan.sblo.jp/
取材した土曜授業が記事になっていました。

# あすマネ

明日からすぐにマネ（真似・マネジメント）できる！

このコーナーは、TVACに寄せられた相談をもとに、市民活動やNPOの運営にまつわるヒントを紹介しています。

＊ 本日のご相談 ＊

# 日ごろ頑張ってくれている ボランティアにお礼をしたい

## ～感謝の気持ちの伝え方～

子どもの見守り保育の活動、子育て広場の活動をしています。
日ごろ、ボランティアには環境の整備から見守り保育、入力作業など
さまざまなことをお願いしています。

ボランティアが帰るときには「ありがとう」と伝えています。
でも、お礼が「ありがとう」だけでいいのかな？ ともやもやしています。
スタッフの中には「お金を渡そう」という意見も出ています。
感謝の伝え方にはどんな方法がありますか。

ご相談のように「ボランティアへ感謝の気持ちを伝えたいけれど、どんなふうに表現するのがいいのだろう」と悩まれている団体は少なくありません。

今回は、「ボランティアへの感謝の伝え方」、「お礼」について考えたいと思います。

### ■ボランティアの存在

現在では、多くのボランティアが幅広い分野で多様な活動をしています。そのためボランティアを受け入れる団体は、どのようにボランティアを受け入れ、一緒に活動していくのがいいのかと、コーディネートに関心を持つ団体が増えてきました。

東京ボランティア・市民活動センターでも、「ボランティアのコーディネート」に関するご相談は増加傾向にあります。

その内容は、「ボランティアプログラムの企画」「募集」「受入」「継続」「感謝の伝え方」など多岐にわたります。

最初はボランティアの募集や受け入れに注力していた団体も、入り口だけではなく、ボランティアと一緒にミッションを達成していくためには、どうすればいいのか考える必要がでてきたようです。

そこで、活動に参加してくれているボランティアに「喜んでもらえるような感謝の伝え方」について悩む団体が増えてきました。

「感謝の伝え方、お礼」について考える前にボランティアについてもう一度考えてみましょう。

そもそもボランティアは団体にとってどんな存在なのでしょうか。なぜボランティアが必要なのでしょうか。団体はどんな目的でボランティアに参加してもらっているのでしょうか。

「ボランティア」は、自分個人のためだけではなく自分以外のだれか、地域や社会のために活動しています。その活動内容も受入団体の活動のサポートをするだけではなく、ボランティアが企画した内容を行ったりと、活動内容はバラエティに富んでいます。

また、ボランティアは、「風」に例えられ、どんなところでも通り抜けていく、柔軟さや身軽さがあります。新しい提案や情報をもたらしてくれ、活動を通じてさまざまな人とつながり、社会をよりよいものに変えていく力を持っている団体にとっ

て大切な存在と言えます。

「ボランティア活動」とは、自発的に（自主性・主体性）、他者や社会のために（社会性・連帯性）、金銭的な報酬を求めずに（無償性・無給性）する活動のことです。そして、創造性・開拓性・先駆性をもって、誰もがその人らしく暮らしていける豊かな社会をめざして、さまざまな人や団体とのネットワークを活用しながら社会課題の解決に取り組んでいくことです。

団体が、ボランティアを受け入れるということは、誰もがその人らしく暮らしていける豊かな社会をめざし、市民が社会課題に取り組む重要な機会をつくることにもなるでしょう。

そして、ボランティアは、個々人が活動の中に楽しさややりがいを見つけながら「やりたいからやる」「自分にできることで社会貢献したい」「知識や視野を広げたい」とさまざまな動機を持って活動に参加しています。

だからこそ団体は、ボランティアに参加してもらう目的を明確に持ちボランティアの気持ちに沿って、「お礼」を考えましょう。

また、ボランティアの動機を可能な限り、受け入れ時にきちんときいておき、記録しておくとお礼選びにも役立ちます。

## ■ボランティア活動の振り返り

感謝の気持ちを伝えるのに、何か特別なことをしなければならないわけではありません。団体ができる小さなことから始め、ボランティア全体にお礼の気持ちを表わしたり、一人ひとりを思い浮かべ、個々に感謝の気持ちを伝えたりと、ボランティアが提供してくれた力を思い出し、その個人を理解しながら、どのような方法があるかを考え、話し合ってみましょう。話し合いをするときにはボランティア活動の振り返りをするのが良いかもしれません。

ボランティアメニューとその内容、参加者、ボランティアが提供してくれたこと、団体内外の環境や現状の変化、利用者の変化や喜んでいたこと、スタッフの変化、ボランティアがいたからこそできたことなどを振り返ります。受け入れ時の動機や日報にボランティアの記録があればそれも参考にしましょう。全体的にボランティアについて振り返りができたらお礼の伝え方を考えます。

## ■「ありがとう」の伝え方

ボランティアが来てくれて、とても助かったということを「ありがとう」の言葉とともに日々、伝えましょう。その時にはできるだけ何に感謝しているのか具体的に表現してください。

日々の言葉だけではなく、もっと見える形で何か「お礼」がしたいということであれば、こんな方法もあります。振り返りを参考にボランティア一人ひとりにあった形を考えてみてください。

例えば

### ●ボランティアコーナーをつくる

人の出入りが多い場所の一角に「ボランティア紹介コーナー」をつくるのもお勧めです。ボランティアの人数が多くない団体は、写真と名前、趣味、どんな活動を担当しているかなど紹介してもいいかもしれません。写真も、証明写真のような顔だけでも素敵ですが、活動で活躍しているシーンの一枚を使うことでボランティアのリアルが伝わると思います。また、写真ではなく、似顔絵をボランティア同士や利用者に描い

### ●ボランティア活動について広報する

団体のホームページや掲示板、ニュースレターなどでボランティア活動の様子を紹介し、感謝の気持ちを伝えます。また、ボランティアが作成したものなどを写真にとり、素敵にレイアウトし、掲載してみるのもいいでしょう。（掲載にあたっては、ボランティアの了解を得るようにしましょう）。

てもらうのも、ユニークなものとなり楽しく、お互いの交流にもなり一石二鳥かもしれません。

人数が多い場合は、デザインを工夫して、映画のエンドロールのように名前を紹介したり、名前ではなく、関わっている活動を紹介し、ボランティアあっての活動であることを掲示してもよいでしょう。

### ●ボランティア同士の交流の機会を作る

お花見や暑気払い、クリスマス会などの行事にボランティアを招待し、ボランティアが集まる茶話会や食事会を企画するなどボランティア同士が交流し、仲間作りができるような機会をつくりましょう。そこにスタッフも参加し、お話をしながら、具体的なエピソードを添えて、感謝の気持ちをスタッフの言葉で伝えます。

ボランティアが満足感を得られるという中に「仕事以外の仲間ができた」という感想が多く挙げられます。そのため「仲間作り」の機会の提供自体もお礼の一つになります。

### ●研修や会議に招待する

関心のある研修会にボランティアを招待したりスタッフの会議などにも参加してもらい意見を求めたりするのもよいでしょう。関心分野の知識が深まり、意見交換の場があることはボランティアにとっても嬉しいことだと思います。意見を出しやすくするためにも会議の場づくりや雰囲気に配慮しましょう。ボランティアが提案してくれた内容がどのように団体に取り入れられたかも共有しましょう。

### ●お礼のお手紙や年賀状、誕生日カードなどを出す

さまざまな機会に、一人ひとりのボランティアに対して感謝の気持ちを言葉にして送ります。福祉活動などの場合は、利用者さんにもメッセージを書いていただくことでより人の温もりが感じられ、喜んでくれるのではないでしょうか。また、お礼のために利用者さんが手作りした折り紙や絵なども感謝の気持ちが伝わるはずです。

### ●ボランティア感謝デイを催す

感謝を伝えるために年に一回、ボランティアデイをつくりボランティアに感謝状を贈る機会をつくったり、スタッフ、利用者、ボランティアのご家族や友人を招いて交流会を開きましょう。団体にとってボランティアの存在がどれだけ重要かボランティア自身にも知ってもらい、感謝の気持ちを伝える日や会をするのもいいと思います。日ごろの活動で忙しいスタッフが時間をやりくりし、開催する会はボランティアへ感謝の気持ちがきっと届くはずです。

### ●記念品を贈る

数年に一度程度の大きなイベントに参加してくれたボランティアには、イベントで使用した団体のTシャツやエコバッグを贈るのも喜んでもらえる方法です。記念にもなるようにイベントのタイトルやイベントを行った日、参加してくれたボランティアのニックネームをなどがデザインされていることで仲間としての意識が高まったり、感謝の気持ちや達成感を感じられるかもしれません。イベントTシャツでユニークだと感じたのは、背中に大きな渦巻きが書いてあり、よく見ると渦巻きの線がアルファベットになっているデザインでした。その渦巻きは、イベントにかかわった全ての人の名前がアルファベットで渦巻きの線にみえるようにデザインされていました。こんなに凝ったデザインでなくとも感謝の気持ちが伝わる記念品を贈ることも一つの方法だと思います。

すぐにできるものから予算が必要なものまでいろいろとご紹介しましたが、何よりも、「あなたが活動に参加してくれたことが嬉しい」という気持ちを団体らしく丁寧に伝えることが重要だと思います。

形骸化した「感謝デイ」にならないような注意も必要です。

## ■お金は本当に嬉しい？

ここでお礼を「お金」で渡すことを考えてみましょう。

ボランティアをしようと思う気持ちは人それぞれです。そのため感謝の気持ちが「お金」でも「嬉しい」と思う人もいるでしょう。

しかし、ボランティアをしたら「お金をもらっちゃった」と戸惑う人もいます。

実費の交通費や実費の材料費など

の必要経費以外のお金を渡すことは、労働の対価と混同しやすく感謝の気持ちとして適切な表現方法と言えないかもしれません。

感謝の気持ちがお金の場合、お金をいただいたボランティアがそのお金を貯金にすることもランチ代につかうことも自由です。お金はいろいろなものや体験に交換できるため、実用的かもしれません。

しかし、お礼としてボランティア活動の成果をお金で換算するのはとても難しいことです。

なぜなら非営利活動や市民活動は営利活動のような等価交換の原理ではなく、共感の原理に基づいており、基準の設定が難しいからです。

お金を感謝の気持ちとして渡している団体からは「本当はこんな金額じゃ申し訳ない金額なんだけど」という声が聞こえてきます。その声は、ボランティアの労力とお渡しした「金銭的価値が一致していない」「金銭換算したらもっと多くのお金を渡す必要がある働きをしてくれた」ということではないでしょうか。つまり、感謝の気持ちとしての金額が団体の経済事情によって変化し、本来表したい感謝の気持ちが正当に表現できていないのが団体の本音なのだと思います。

ボランティアをするときに、お金を得ようなどと全く思っておらず、「誰かの役に立ちたい」「楽しそう」「自然環境や生活環境が改善されたらいいな」と思って活動を始めた人は、ボランティアとして参加した感謝の気持ちが「お金」だったとしたら、どんな気持ちになるでしょうか。

ボランティアをしようという気持ち同様、感謝の形が「お金」だとしても人それぞれが違った感じ方をするでしょう。

しかし、どのぐらいの人が「純粋に嬉しい」と思ってくれるでしょうか。私たちの社会がお金に非常に高い価値を置いているため、つい「お金」は喜ばれると思いがちです。しかしボランティアというものが、お金以外のためにする活動であるならば、「ボランティアへのお礼」は「その人にあった、団体らしい心の豊かさや温かさがこめられた感謝の気持ち」を表現することが大切だと思います。

## ■感謝が伝わる団体に

「目は口ほどにものをいう」という言葉があるように口では「ありがとう」と言っていても、「感謝デイ」を開催したとしても、団体、スタッフの気持ちや態度が伴っていなければ「感謝の気持ち」は伝わりません。

また、スタッフの気持ち以前にボランティアが参加する活動自体が「女性だから料理や雑用」「男性なんだから保育じゃなく、おもちゃを直すのに専念してよ」と無意識だとしても、偏見や差別意識が活動や言動ににじみ出ていれば、いくら「感謝の気持ちを伝える機会」をつくってもボランティアは気持ちよく感謝の気持ちを受け取れないでしょう。

日ごろから団体の文化、スタッフ自身の言動を振り返り、ボランティアが参加してくれて「ありがたい」「嬉しい」と、心から湧き上がる気持ちを大切にし、スタッフとボランティアはミッションを共有し、活動している対等な関係であることを意識しながら「お礼」をすることが重要だと思います。

## ■最初の一歩

今回の相談者は、スタッフでボランティアの参加で変わったこと、嬉しかったことを話し合い、スタッフ自身の言動も振り返り、交流会の企画をしたいと話していました。

（安井忍　相談担当）

### ボランティアのお礼はいろいろ

- 日々、「ありがとう」と言葉で伝える。
- ボランティア活動を広報する。
- ボランティアコーナーをつくる。
- 交流会を開催する。
- 研修や会議に招待する。
- お手紙や年賀状、誕生日カードなどを出す。
- ボランティア感謝デイを開催する。
- 記念品を贈る。

### 東京ボランティア・市民活動センターの相談

東京ボランティア・市民活動センターでは、NPO、ボランティアグループ、当事者団体の設立・運営などのご相談をお受けしています。ぜひ、お電話ください。

TEL：03・3235・1171

# ボランティア・NPO・市民活動をめぐる動き

## ボランティア・NPO・市民活動をめぐる動き

### 1月

- 「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づき、指定活用団体を指定（11日）
- 「ガーナ政府を動かした、ACEチョコレートプロジェクトの10年とこれから」（世界の子どもを児童労働から守るNGO ACE、22日）

### 2月

- 岩手県山田町NPO損賠訴訟で元代表に5680万円賠償命令、私的流用分だけを認定。「損害賠償額の返還が見込めない」と町が控訴しない方針を決定（22日）

### 3月

- 「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアー最終報告会（9日）
- 「青少年の居場所づくり」全国フォーラム2019「生きるって悪くない ～関係性の貧困を考える～」（横浜市青年団体連絡協議会、16日）
- 「福島と東京の高校生が語る、東日本大震災の未来」（ヒューマンライツ・ナウ、29日）

### 4月

- 陸上自衛隊駐屯地の開設式典で住民の抗議活動が活発化（沖縄県宮古島、7日）
- 「G20大阪サミットに向けた「インフラ輸出戦略」の課題 ～石炭火力支援への高まる国際批判～」（国際環境NGO FoE Japan、11日）

### 5月

- セツルメントの歴史がある社会福祉法人興望館（墨田区）が創立100年（1日）
- 裁判員制度10年記念イベント「お笑いで考えよう 裁判員ってどんなんやろ!?」（大阪ボランティア協会＋裁判への市民参加を進める会（裁判員ACT）、19日）
- 使い捨て容器の減量をめざす「Refill Japan」キックオフ（水Doネットワーク、29日）

### 6月

- 移住者と連帯する全国フォーラム・東京2019「出会う、感じる 多民族・多文化共生社会 ～いっしょに考え、ともにつくろう～」（1～2日）
- こども食堂1年で1・6倍、過去を上回るペースで増え続け、37118箇所に。全国こども食堂支援センター・むすびえが調査結果発表（26日）
- 仙台市市民活動サポートセンター開館20周年記念イベント「超！マチノワ」（30日）

## 社会の動き

### 1月

- 日本からの出国時に1人1000円を課す国際観光旅客税（出国税）適用開始（7日）
- テニス全豪オープン女子シングルス、大坂なおみさんが優勝。アジア選手として男女初の世界1位に（26日）

### 2月

- 探査機はやぶさ2、小惑星リュウグウに着地成功（22日）
- 沖縄県民投票で辺野古埋め立て「反対」7割。法的拘束力はなく、工事は続行（24日）

### 3月

- JR中央本線「あずさ」「かいじ」の自由席廃止。全席指定化で実質値上げ（16日）
- 日本プロ野球と米大リーグでプレーし、日米通算4367安打を記録したシアトル・マリナーズのイチローが現役引退を表明（21日）

### 4月

- 外国人労働者の受け入れを拡大する改正出入国管理・難民認定法が施行（1日）
- セブン-イレブン、一律の24時間営業を見直す方針を表明（4日）
- ノートルダム大聖堂で大火災（15日）
- 「旧優生保護法に基づく優生手術等を受けた者に対する一時金の支給等に関する法律」成立。被害者による提訴（18年）などを受け（24日）

### 5月

- 天皇陛下が即位。「令和」に改元（1日）
- 幼保無償化法（改正子ども・子育て支援法）が成立（10日）
- 台湾で同性婚を合法化する特別法が成立。アジアでは初（17日）
- 改正資金決済法が成立。「仮想通貨」を「暗号資産」とあらため取引の規制へ（31日）

### 6月

- 「動物の愛護及び管理に関する法律等の一部を改正する法律」成立（12日）
- ハンセン病の元患者の家族が、患者の隔離政策で家族も差別や偏見を受けたとして国に損害賠償を求めた「家族訴訟」で、熊本地裁は損害賠償命令（28日）
- G20大阪サミット、日本で初の開催（28～29日）

# 2019年

## 7月

- 茨城県、同性カップルも夫婦同様のパートナーとして認める「いばらきパートナーシップ宣誓制度」を導入。都道府県では初（1日）
- ボランティア活動に積極的に取り組む全国の高校生が交流を深める『高校生ボランティア・アワード2019』（29～30日）
- 第12回東京シューレ大学国際映画祭『生きたいように生きる』（23～25日）
- TICAD直前市民シンポジウム「ここから始めるアフリカin横浜」（市民ネットワークfor TICAD（Afri-Can）、25日）
- 韓国に対する差別意識と敵意を煽る『週刊ポスト』の特集記事を受け、小学館本社前で抗議活動（6日）
- 横浜市で「STOPカジノ横浜準備会議」（12日）
- 「貧困ジャーナリズム大賞2019」授賞式&シンポ（反貧困ネットワーク、28日）
- 「LGBTも自分らしく働く」を掲げ、日本初のダイバーシティに関するキャリアフォーラム「RAINBOW CROSSING TOKYO 2019」（19日）
- 開幕からわずか3日で中止となっていた「あいちトリエンナーレ2019」の企画展「表現の不自由展・その後」が再開。市民や作家らの運動が後押し（20日）
- 第1回カジノ問題を考える講座「ハーバーリゾート構想を聞く」（カジノを考える市民フォーラム、30日）
- 性暴力撲滅に向け刑法改正を求め、「ひとつの言葉　ひとつの想い　刑法を変えよう！OneVoiceフェス」（一般社団法人Spring＋フラワーデモ、10日）
- 「子どもの権利条約フォーラム2019 ～みんなで考えよう「自分らしさ」ってなんだろう？」。国連での同条約採択30年、日本の批准25年にちなみ（16～17日）
- 医師の中村哲さんが銃撃を受け逝去。「ペシャワール会」現地代表として35年にわたりアフガニスタン現地における医療・生活改善に尽力（4日）
- 川崎市、ヘイトスピーチ禁止条例が成立。罰金は最高50万円（12日）
- 税制改正大綱発表。認定NPOも「みなし譲渡所得の承認・買替特例」適用に（12日）
- 「選択的夫婦別姓・全国陳情アクション」による陳情等を受け、台東区・武蔵村山市議会が制度実現を国に求める意見書を採択。採択済み都内自治体は27に（19日）

## 8月

- 九州北部で記録的な大雨（28日）
- 東京都の最低賃金が初の時間額1000円超え。47都道府県の全国加重平均は901円に（30日）
- 横浜市で第7回アフリカ開発会議（TICAD7）（31日）

## 9月

- 台風第15号発生。関東地方を中心に被害（5日）
- 第4次安倍再改造内閣発足（11日）
- ラグビーW杯日本大会開幕、日本代表は予選リーグ全勝、初の8強入りの快挙（20日）
- 環境活動家グレタ・トゥーンベリさん、国連気候行動サミットでスピーチ（23日）
- 「京都アニメーション」スタジオに男が侵入、ガソリンをまいて放火。36人が死亡する惨事となった（京都市、18日）
- 参院選。重度の身体障がいをもつ2名がれいわ新選組から比例当選、登院へ（21日）
- 政府、ハンセン病患者家族に謝罪（24日）

## 10月

- 改定消費税率10％が適用開始（1日）
- 台風19号発生。関東地方や甲信地方、東北地方などに多大な被害（6日）
- ノーベル化学賞に旭化成・吉野彰さん。リチウムイオン電池開発などの功績（9日）
- 千葉県豪雨（25日）
- 那覇市の世界文化遺産・首里城で火災。正殿など主要部分が焼失（31日）

## 11月

- 20年度から始まる大学入学共通テストで導入予定だった英語民間試験の見送りが決定。大学、受験生、教育関係者らの強い反発を受けて（1日）
- 20年東京五輪、マラソンおよび競歩の会場を札幌市に変更することが決定（1日）
- ローマ教皇、38年ぶり2回目の来日。広島・長崎を訪問し核兵器廃絶を訴えたほか、天皇陛下と会見（23日）

## 12月

- 気候変動が加速する中COP25開催。日本は2度目の「化石賞」を受賞（マドリード、2～15日）
- イギリス総選挙、与党の保守党が圧勝。1月にもEU離脱の見通し（12日）
- 宇高航路の四国フェリー運航を休止。109年の歴史に幕（15日）
- 記録的熱波と森林火災を受け豪ニューサウスウェールズ州で非常事態宣言（19日）
- 自衛隊の中東地域への派遣が閣議決定。260人、活動期間は1年（27日）

# Vol.4 中高生のボランティア団体VIOLET!!

武蔵野大学 工学部数理工学科　村松 波

## 中高生がつくるボランティア

自然災害の多い日本。地震や台風、大雨といった災害が起こる度に多くのボランティアが活動しています。テレビや新聞で見かけるボランティアはほとんどが大人かもしれません。一方、自分にできることを探してボランティア活動に取り組む中高生がいます。「VIOLET!!（バイオレット）」という団体です。

元々、中学・高校のボランティア部の部員が他の学校の取り組みを知りたいと集まり、「学校間交流会」という名前で活動していたこの団体。活動するメンバーが増え、活動内容の幅が広がっていく中で、ボランティアの経験がない中高生にも活動を知ってもらいたい、参加してもらいたいという思いから新名称を考え、花言葉が「社会貢献」であるスミレの名をとり、現在の「VIOLET!!」になりました。

私は高校生の時、卒業研究のテーマにボランティアを選び、情報を得ようと参加したボランタリーフォーラムで「学校間交流会」の取り組みを知り、一緒に活動を行っていました。大学生になった今も、中高生の活動をサポートしています。今回はそんな中高生のボランティア活動団体、「VIOLET!!」についてご紹介します。

## 自らで考え行動する

中高生ながらその活動内容は多岐にわたります。具体的には、清掃活動といったボランティアとしての活動はもちろん、ボッチャ体験を通した障がい者スポーツへの理解を深める活動、自分たちの活動経験を伝えるフォーラムの運営等も行いました。さらに、今年度は新しい挑戦として「VOILET!!」のメンバーの中からチームを組み、中高生自身でボランティア活動を企画し、活動先と連絡を取り合って行う活動を始めています。

学校の垣根を越え、自ら考え行動し、積極的に動く中高生。ボランティア活動を通して学校とは違う環境、コミュニティで社会と自身のつながりを考える時間は中高生にとってかけがえのないものになっているのではないかと思います。

## オリンピックに向けて

2020年を迎えた今年。夏には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。オリンピック関連のボランティアの募集は終了しましたが、大会が始まればさまざまな場面で困っている人に出会うでしょう。そんな時、声をかけるには勇気が必要です。そんな勇気、積極性を身に着ける場としても「VOILET!!」は最適な場ではないでしょうか。

中高生のみなさん、今年をきっかけにボランティアを始めてみませんか？

「VOILET!!」への参加、お待ちしています。

写真 上から順に、
①令和元年度台風19号 都内一斉街頭募金における活動で、街頭に立つVIOLET!!のメンバー。その他、2019年度は夏祭りのボランティアや関心ある分野に分かれてのグループ活動、ボランティアフェスティバルの企画・運営等をしています。②募金活動後の振り返り。③VIOLET!!のチラシ。

つぶやきブレイク vol.11

# 孤独と自立のあいだにあるもの

『文鳥・夢十夜』
著者：夏目漱石　新潮文庫刊

夏目漱石の随筆・随想集である『永日小品』は、「クレイグ先生」という話が面白い。クレイグ先生ことウィリアム・J・クレイグは、漱石がロンドンで暮らしていた時、英詩や文学の個人教授を受けた人物で、アイルランド出身のシェイクスピア研究家だ。

まるでコントのように、天然ぼけを発揮するクレイグと、それに特段つっこまない漱石とのやりとりが、ユーモラスに描かれている。

クレイグの話し方は時に極めて聞き取りにくく、そんな時、漱石は「ただ運を天に任せて先生の顔だけ見ていた」のだそうだ。その光景が目に浮かぶようで楽しい。

漱石はこの英国留学中ノイローゼになり、帰国を命じられたともいわれている。100年以上も前に、西洋化、近代化を推し進める東洋の果てから欧州に派遣された一教師。現地でいくばくかの邦人との交流はあったにせよ、目的を探求すればするほど、己の立場がはらむ矛盾や、ちぐはぐさに悩み、孤立・孤独を深めたとしても不思議はない。

まあ、ノイローゼ説の真偽はともかく、漱石が孤独のうちにも、ロンドンでこのような時間を過ごしていたのかと思うと、それはそれで可笑しい。

一方、当時の西洋文化を嫌うようにして日本にやってきたのが、『怪談』で有名な小泉八雲こと、ラフカディオ・ハーンだ。ハーンはアイルランドとギリシャの血を引き、イギリス領に生まれた。その後アメリカに渡り、新聞記者として働く。来日後は英語の教師をしながら、日本文化について多くの著作を残した。

そのうちの一冊である『日本の面影』を、NHKが昔ドラマ化したことがあった。ハーンを演じたのは、ミュージカル映画のウェストサイド・ストーリーで有名な俳優、ジョージ・チャキリスだ。後から知ったが、彼もギリシャ系だそうな。

明治の日本において、急速に失われてゆく、ハーンが好んだ古き良き日本の面影を描いたこの作品は、漱石が抱いた虚無への一つの答えではなかろうか。

「『単純』、『温和』、『丁寧』、『親切』、『微笑み』、『幽霊(一)』。そうしたものを脇に押しやって、西洋的な近代化の道をひた走る日本は、今に傲慢で、自分勝手な人間があふれる社会になるだろう」とハーンは予言している。彼が最後に教鞭をとったのは東京帝国大学だが、ハーンの後任となったのは、ほかならぬ漱石であった。

ハーンが最初に着任した島根県松江の尋常中学校に西田千太郎という人物がいた。後年、その訃報を聞いたハーンは、帝大の講義の中で山陰の一教師であった彼の死を悼んだ。かけがえのない存在であった友人の実直な人間性をたたえ、「人はよく自立を口にするが、人間は他者を頼らずに生きていくことはできない。互いの良き依存があってこそ、はじめて良き自立というものが可能になるのだということを、彼は教えてくれた」と学生たちに説いたハーン。その言葉が色あせることは、多分ないだろう。（佐藤新哉）

『新編 日本の面影』著者：
ラフカディオ・ハーン、訳：池田 雅之
KADOKAWA／角川ソフィア文庫

# モノ言うＴシャツ

多様なボランティア・市民活動や、福祉施設などが、そのメッセージを
バラエティ豊かなＴシャツデザインに込めてアピールしています。
題して『モノ言うＴシャツ』。
あなたが着たいのはどれ !?

2

1

4

3

### 2．C.R.A.C.

ヘイトスピーチ・デモに対するカウンター（反対行動）の象徴の一つとなっており「このＴシャツを着ている人たちがいると安心してカウンター行動ができる」との声も多い。ほか、札幌、横浜、東京、大阪、京都、神戸、福岡 など各地域のバージョンがある。

### 1．おんぶらーじゅ

50 年以上の年月を経て障がい者福祉施設である南風会の発祥、青梅学園が建て替えを迎えることになり、建て替え応援としてチャリティーＴシャツを作製した。この絵は青梅学園の入所者が一瞬、建物を見ただけで、その記憶をもとに描いたもの。綿密なデザインが好評。

### 4．神奈川子ども未来ファンド

「多様性を認め合い、共に生きるいじめのない神奈川、いじめの傍観者にならない神奈川」の実現に向け、ピンクシャツデーの取り組みを社会に発信し、広く普及することを目的とする活動のＴシャツ。

### 3．JUON NETWORK × JAMMIN

1 週間限定のデザインＴシャツで、NGO/NPO への寄付を集める京都のソーシャルウェアブランド JAMMIN( ジャミン ) が、都市と農山漁村が支え合うネットワークを、森林などをめぐる体験・交流・応援の活動によってひろげる認定 NPO 法人 JUON NETWORK のＴシャツをデザイン。

6

5

8

7

10

9

### 7．沖縄平和サポート

購入者の多くは沖縄県名護市辺野古の米軍基地建設に異を唱える人たち。2019 年 10 月には辺野古･大浦湾一帯が「日本初」のホープスポット（希望の海）に認定され、12 月には国際自然保護連合（IUCN）が 1 沖縄のジュゴンを絶滅リスク最高ランクに引き上げた。

### 6．あらかわ子ども応援ネットワーク

子どもの居場所づくりや子ども食堂の活動、学習支援、不登校支援、家庭支援など地域住民による活動や、荒川区役所・荒川区教育委会等の行政、荒川区社会福祉協議会、首都大学東京荒川キャンパス等が連携して、地域の子どもの健全な成長につながる活動を行っているネットワーク。

### 5．リカバリーパレードジャパン「回復の祭典」

「社会の偏見を取り除くのは回復者自身の責任である」をスローガンに、依存症、心の病に対する社会の無知や偏見を取り除き、回復しやすい社会をつくることを目的としている団体の T シャツ。

### 10．イタール成城

社会福祉法人いたるセンター イタール成城 通所生活介護事業部作製。イタール成城の「PLAIN ART」とは、飾らない（PLAIN）ありのままの個人をアートで表現すること。アートを媒介として様々な思いや価値観が交錯し、新たな形として生まれる瞬間を創造したいと考えている。

### 9．社会福祉法人つばき土の会

障害者支援施設「もぐらの家」では、東日本大震災支援の一環として、T シャツの作成、販売を通じてその売上げの一部を寄附として、震災後から 2017 年度まで継続して取り組んできた。

### 8．Monkey Magic × THE NORTH FACE

NPO 法人モンキーマジック。「見えない壁だって、越えられる。」をコンセプトに、フリークライミングを通じて、視覚障がい者をはじめとする人々の可能性を大きく広げることを目的とし、活動している NPO 法人の T シャツ。デザインはグルービジョン。

# 読者の声 ～本誌363号より～

読者の皆さんからいただいたアンケートの一部をご紹介させていただきます。

**◇特集：学校の今**
**～地域で支える体験学習と課外授業**

・小学生や中学生の頃は、体験活動や課外活動が面倒くさいと感じていました。高校生になり、ボランティア部に入部し、ボランティア活動をしていくうちに、面倒くさいと感じていた、体験活動や課外活動が今では好きになり、楽しい活動の1つとなっています。

・麹町中学校の取り組みには驚きました。先生の過重労働や、中学の5教科の授業時間よりも、部活動の時間の方が多いというのも驚きでした。

**◇思い立ったがボラ日：**
**ちょうふチャリティーウォーク**
**実行員会**

・このようなチャリティーを通し、集まったお金を自分の地域のために使おうと考え行動する人びとがすごい、と思いました。究極の地域に根差した社会貢献活動であると思います。

**◇セルフヘルプという力：**
**JRPS（日本網膜色素変性症協会）**
**ユース部会**

・このコーナーに登場する、グループを立ち上げたり、活動を広げる努力をされている方の意思と行動力にはいつも尊敬の念を禁じえません。初めて聞く難病もあり、それぞれに立ち向かっている姿に励まされます。まず、声掛けから、ですね。

・祖父も視覚障がいでしたが、自分自身の意志が強く、やりたいことをやり遂げる祖父だったので、今思うとかっこいいなと思います。

**◇TVAC News：**
**中間支援組織スタッフのための**
**支援力アップ塾**

現場を見て、現場から学ぶこと。百聞は一見に如かずの通りで、大切なことだと思います。現場から学ぶための、シャドウイングの実践は、ものすごく理にかなっていると思いました。

**◇いいものみぃ～つけた！：**
**シャロームみなみ風**

・プラバンアート、個人的には一番面白かったです。魚のマスキングテープの中に海老天がある。「料理されてるやないケー」と思いわず乗り突っ込みをしてしまいました。

・商品の数々と同時に、普段の活動も紹介されていて、興味がもてる記事だと思いました。

---

**東京ボランティア・市民活動センター**
(TVAC: Tokyo Voluntary Action Center)
**http://www.tvac.or.jp**

東京ボランティア・市民活動センターは、ボランティア活動をはじめとするさまざまな市民の活動を推進・支援しています。どうぞご利用ください。

**利用**

| | |
|---|---|
| 会議室 | 会議室A・B（各40人）・C（15人）無料<br>※会議室AB通し（80人） |
| 貸出機材 | 印刷機（2台）紙持ち込み、点字プリンター 他 |
| 申込み | 4ヶ月前から電話で受付（03-3235-1171） |

**情報提供**

最新のボランティア・市民活動情報は、センターのホームページでご覧いただけます。http://www.tvac.or.jp/

**開所時間**

火曜日～土曜日: 9時～21時／日曜日: 9時～17時
（月・祝祭日・年末年始除く）

**交通アクセス**

JR、地下鉄（東西線・有楽町線・南北線・大江戸線 出口B2b）
飯田橋駅下車

**ネットワーク**は、
ボランティア・市民活動を広げ、
応援する情報誌です！

【次回予告】2020年3月下旬発行予定
特集 **市民がつくるスポーツ・コミュニティ（仮題）**

発行人　山崎美貴子

編集委員　五十嵐美奈（興望館）
上杉貴雅（オレンジフラッグ）
江尻京子（東京・多摩リサイクル市民連邦）
齋藤啓子（武蔵野美術大学 造形学部教授）
シューレ大学 社会学ゼミ（東京シューレ シューレ大学）
中原美香（NPOリスク・マネジメント・オフィス）
まつばらけい（フリーライター）
渡戸一郎（明星大学名誉教授）

編集・発行: 東京ボランティア・市民活動センター
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
セントラルプラザ10階
TEL: 03-3235-1171　FAX: 03-3235-0050
E-mail: nw@tvac.or.jp

印刷: ㈱丸井工文社
デザイン: 東京ボランティア・市民活動センター／㈱丸井工文社
表紙イラスト: フローラル信子

2020年1月20日発行（通巻No.364）
ISBN 978-4-909393-18-0 C2036
371円＋税
本誌掲載記事の無断複製・転載を禁じます。

1000 9659

# いいものみい～つけた!

**このコーナーでは、ボランティア・市民活動・福祉施設のグッズや作品を紹介します。**

Vol. 23

## NPO 法人ちょんこめ会
## ちょんこめ作業所

1

こんにちは！八丈島の「ちょんこめ作業所」は、笑顔いっぱい元気いっぱいの、にぎやかな作業所（生活介護・就労継続支援Ｂ型）です。「ちょんこめ」とは島言葉で「子牛」。「歩みはゆっくりでも、強く大きな成牛になるように…」という思いが込められています。現在19～78歳の様々な障がいのある仲間達が29名通っています。

普段は、アルミ缶リサイクル作業、ステンシル作業、東京都八丈支庁からの受託作業のトイレ清掃、花壇作業などを行っています。

ちょんこめ製品のステンシル作品は、八丈島の植物や海の生き物の模様を、布巾や手ぬぐいＴシャツ等に染めています。色遣いや柄の組み合わせで、その人らしい作品ができるのが魅力です。また、利用者さん作のイラストや書をプリントしたＴシャツやタオル、バッグなども観光土産としても人気です。

2


NPO法人ちょんこめ会
**ちょんこめ作業所**

所在地　〒100-1511　東京都八丈島八丈町三根２－１
TEL　04996-2-3678　FAX　04996-2-3678
E-mail　chonkome@chive.ocn.ne.jp
HP　https://chonkome.jimdofree.com/
https://fb.com/npochonkome/

3

4

1 人気の「島寿司」イラストグッズ。作者の広江さんと。

2 東京都八丈支庁の展示コーナーに、いろいろな作品を展示。

3 ステンシル作品、制作中！！

4 ステンシル手ぬぐい、布巾。お土産屋さんで販売中。

ボランティア・市民活動を広げ、応援する！
ネットワーク Network
2020年1月20日発行　2020年2月号　通巻364号　発行人　山崎美貴子　〒162-0823　東京都新宿区神楽河岸1-1　東京ボランティア・市民活動センター
本体371円+税

美しい時代へ――東急グループ

助成先の市民団体を募集します

1件あたり 50～100万円

# 第1回 東急 子ども応援プログラム

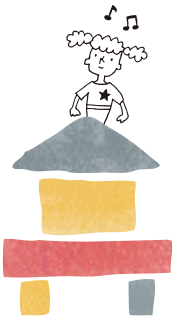
皆さまの活動を応援する助成制度がスタートします。

すべての子どもが安全・安心で心豊かに暮らせる生活環境づくりを応援したいという願いから、
「東急子ども応援プログラム」を開始します。
子どもは一人ひとり多様な可能性を持っています。しかし、慌ただしい生活時間や
限られた人間関係の中で、可能性の芽がのびのびと育ちにくい環境があり、さらには、いじめ、引きこもり、
家庭内暴力、経済的に困窮する家庭状況や、不安や困りごとなどを抱えている子どもたちもいます。
地域には、そうした子どもの様子や子どもたちを取り巻く課題に気づきサポートをする、
家族や学校以外の地域の大人たちの活動があり、子どもたちと家族を支えています。
このプログラムでは、子どもたち一人ひとりが望む「幸せ」につながることを願って
助成金の支給などを通じて、皆さまの活動を支援していきます。

## プログラム概要

［助成対象となる活動］
子どもを取り巻く社会課題の解決を目指し、安全・安心で心豊かな生活環境をつくる活動

［活動例］
1. 子どもが安全で安心できる場を提供する活動
2. 障がいや難病とともに暮らす子どもと家族を支援する活動
3. 子どもの生きる力の向上につながる活動
4. 子どもたちの安全・安心な暮らしを支えるコミュニティーをつくる活動
5. その他、本プログラムの趣旨に合致する活動



■ 助成対象となる団体
助成対象となる活動地域が東急線沿線の市区内※ にあること
（主たる事業所はそれ以外でも構いません）
※ 東 京 都：品川区・目黒区・大田区・世田谷区・渋谷区・町田市
神奈川県：横浜市 神奈川区・西区・中区・港北区・緑区・青葉区・都筑区
川崎市 中原区・高津区・宮前区　大和市

■ 助成期間
2020年7月～2021年6月（1年間）
（毎年の応募・選考により最長2年までの継続助成あり）

■ 助成額
1件あたりの助成額：50～100万円

**応募受付期間：2020年2月17日（月）～3月2日（月）必着**

詳しくはWEBへ　https://www.tokyu.co.jp/kodomoprogram/

東急

■ 主催
東急株式会社

■ 問い合わせ先
東急株式会社
社長室 サステナビリティ推進グループ 社会活動推進担当
東急子ども応援プログラム 係
〒150-8511 東京都渋谷区南平台町5-6
TEL：03-3477-6203（平日10時～17時）
Email：kodomo@tkk.tokyu.co.jp

ISBN978-4-909393-18-0 C2036 ¥371E